

20mm以下の小切開で行う顕微鏡視下低侵襲経椎間孔的腰椎椎体間固定術の手術術式による術後リハビリテーションに与える影響に関する調査に関する研究

1. 研究の対象

2015年10月～2023年8月に当院で顕微鏡視下経椎間孔的腰椎椎体間固定術を受けられた方

2. 研究目的・方法

腰椎不安定性を伴う腰部脊柱管狭窄症および腰椎すべり症等に対して、約28mm切開 tubular retractor で行う顕微鏡視下低侵襲経椎間孔的腰椎椎体間固定術（MIS-TLIF 従来法）を行ってきたが、2022年12月から約20mmの小切開、Φ16mmまたはΦ18mm径 tubular retractor 留置下に行う MIS-TLIF（MITLIF）を考案し、手術実績を積み重ねている。MITLIFは、国内で使用可能な tubular retractor で最小径であり、最小侵襲術式と考えるが従来法と比較して術後リハビリテーションに与える有効性について調査を行うことを目的とする。

研究方法は、術式間での術後リハビリテーションへの影響の相違を評価するために、臨床成績および臨床症状の推移について検討する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、治療経過、カルテ番号 等

試料：血液、骨塩定量、腰椎単純X線像、CT像、MRI

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター 林田 達郎

-----以上